



AtoZ 進学セミナー
ひばりが丘

総 合 パ ン フ レ ッ ト



教育業界で、よく言われること。

- ☑「がんばって勉強して、少しでも出来るようになれば、モチベーションが上がり、また勉強するようになる。」
- ☑「努力してできるようになれば、勉強が好きになり、塾にもっと来なくなる。」
- ☑「学問に興味を持たせることができれば、成績はどんどん向上する。」

この考えが100%正しいと思われる方は、大手の進学塾や他の学習塾へ通われることをお勧めします。恐らく、あなたのお子さんは「勉強が好きで、成績も良好な」お子さんでしょうから、上のような考え方で学力は伸びていくと思います。

しかし、上のような考え方で指導され、全く効果が出なかった子どもたちがいる事実を、私は何度も見てきました。ですから、少なくとも私は、上のような考え方を100%信じてきってはおりません。

何が子どもたちを「勉強すること」から遠ざけているのか。

昨今「学校嫌い」の中学生はどんどん増えています。学校の教員に全ての原因があるわけではないでしょうが、少なくとも「学校嫌い」の一因であることは確かでしょう。全ての学校ではないにしても、教員の質の低下が叫ばれ、時代に合っていない子どもたちを画一的に指導する学校教育の中で、子どもたちは学んでいます。

当然、学習塾は勉強をする場所です。しかも、学校より進度は速く、受験に合わせて学習を進めていくわけです。その授業はというと、講師が新出単元についてレクチャーし、テキストを用いて問題演習。これがほとんどです。授業が終わったら、帰宅。そんな感じです。このようにして、学校や部活が終わった後、子どもたちは毎日のように勉強をしています。

あなたは、上のような生活を見て、どう思われますか？私には、ほとんどの子どもたちが1日に2度、あまり好きではない「学校」に義務的に通っているように見えてならないのですが、あなたはどうか？

子どもたちを「勉強すること」から遠ざけているもの。 それは、「人間関係と環境」です。

単純に考えてみてください。

あなたのお子さんは「あまり好きではない人」から、多くを学び取ろうとするでしょうか。

あなたのお子さんは「楽しくもない環境」で、一生懸命長い時間勉強するでしょうか。

人間は感情の生き物です。いくら理性的に「将来のために、勉強を頑張らなければ…」と振舞っていても、ましてや小・中学生が、自分の感情を押し殺して、勉強をしようとは思いません。大人でも無理です。なかなか続きません。

文章の冒頭でご提示した「教育業界でよく言われていること」を、私が 100%信じてきていないのはこの為です。

誤解しないで頂きたいのは、「教育業界でよく言われていること」の全てを否定しているのではありません。間違っは居ないと思います。しかし、私は、最初の「がんばって勉強する」や、「努力してできるようになる」、「学問に興味を持たせる」の前提条件が抜け落ちているから、現代の子どもたちにうまく適合できていないと思うのです。

- ☑ **わかりやすい授業を展開していても、その授業をやっている人間が好きでなければ、聞きたくなくなります。**
- ☑ **努力の重要性を説かれたとしても、その説いている人間との信頼関係がなければ、煩わしく聞こえます。**
- ☑ **どんなに高尚な学問の話を読んでも、その人間自体に興味があれば、話している内容にも興味はありません。**

もう一度申し上げます。人間は感情の生き物です。人間が何かの行動を起こすとき、まず脳内で思考されるのは、「好き」か「嫌い」かの二者択一であるということです。

子どもたちの「学校嫌い」は、結局のところ、「先生が面白くない」という理由がほとんどです。ましてや、現代の子どもたちのコミュニケーション能力は、著しく低下してきていると言われていています。そして、現代は「多様化」を認める社会になってきました。それに対応できない教育者が増えてきているのも、実情と言えるのではないのでしょうか。

学習塾も同様です。既に全ての子どもたちが、「勉強!!勉強!!」という時代は終わりました。子どもたちも数多くの習い事をするなど、子どもたちが成長する道筋や考え方は、今まで以上に多種多様になってきています。そうすると、「勉強に向かわせる為にかける言葉」も、子どもたち一人ひとりの傾向に基づいて選ぶ必要が出てくるわけですが、なかなかそういったことができる学習塾の講師はいません。なぜなら、ほとんどの学習塾の唯一と言っても良い興味は、「成績を上げ、進学実績を上げる勉強方法」だからです。

ですから、まず整えなければならないのは、「子どもたち一人ひとりが、自分のことをわかってくれていると信じられる人間関係と、その人間たちが作り出す環境」なのです。

**「勉強が好きになったから、塾が好きになる」のではない。
「塾が好きだから、勉強するようになる」のです。**

もしかすると、私は世間一般の学習塾とは逆のことを言っているかもしれません。

しかし、既存の学校教育や学習塾と同じような子どもたちとの人間関係の作り方では、子どもたちのよりよい将来と一緒に考え、それに必要な学力を養成するお手伝いはできないと考えております。

教室が醸し出す環境や、講師の人間性、それらを好んでくれた子どもたちは、毎回楽しそうに塾に通います。塾に来た場合、「すること」は勉強です。塾への足取りが軽くなれば、必然的に勉強量が増えるわけです。

そして、子どもたちが塾にいれば、コミュニケーションの量が増えます。そうすれば、子どもたち一人ひとりの傾向を察知することが容易になり、彼らとの信頼関係を構築しやすくなるわけです。
だからこそ、より勉強をするようになるための「順番が逆」だと申し上げたいのです。

- ☑ 授業をやっている人間が好きであれば、その授業を聞くようになり、必然的に知識が増えます。
- ☑ 努力の重要性を説いている人間との信頼関係があれば、それを信じ、努力し、結果が出やすくなります。
- ☑ 学問の話をしている人間に興味があれば、その内容に興味を持ち、もっと知りたいと勉強するようになります。

人間を育てるのは、人間以外に存在しません。人間を成長させるのは、テストに出やすい問題を網羅したテキストでもなければ、とてつもなく便利な自習室でもないのです。ましてや、目を見張るような進学実績でもありません。

あなたが子どもだったときのことを少し思い出してみてください。必ず、信頼できる大人からの助言があったのではないのでしょうか。

**もしかするとあなたが思ってもいないレベルで、
私たちは、あなたのお子さんを一緒に育てていけるでしょう。**

私たちほど、子どもたちと「いろんなことを話し、笑いあい、真剣に人生についての話をする」教育集团はいないと自負しております。

そして、私たちほど、子どもたち一人ひとりの性格、そのときの感情、心理的傾向にまで踏み込み、学習というツールを使いながら、お子さんを一人の大人にしていくことを、真正面から向き合って実践しようとしている学習塾は他にはないのではないのでしょうか。

最後に、一つ質問をさせて下さい。

お子さんが「勉強をする場所」から自宅に帰ってきたとき、あなたのお子さんは笑顔ですか？楽しそうですか？

是非、お子さんに体験授業を受けさせてみてください。

お子さんの方から、「このまま AtoZ で続けたい」と言ってもらえると思います。

AtoZ 進学セミナー ひばりが丘教室長

松本 弘幸

◎教育理念

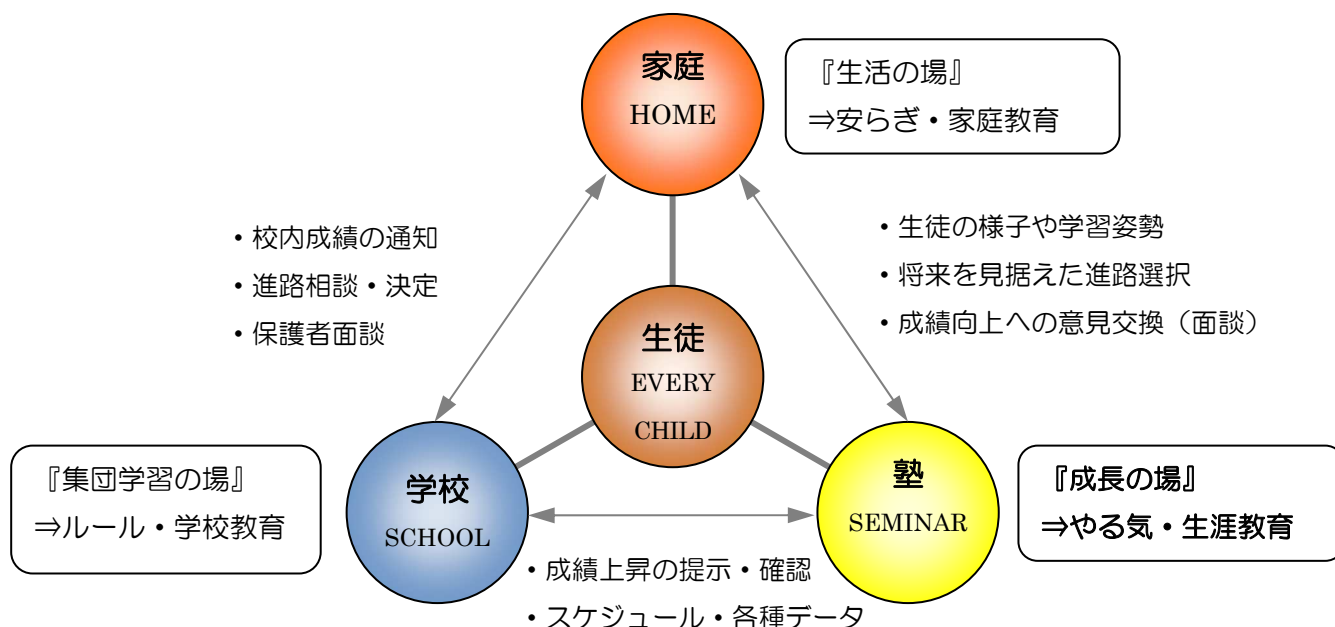
『コミュニケーションを通じた知育環境の創造』

「教育」という言葉について、いったい皆様はどのようなイメージをもっているのでしょうか？ 私たちは、人と人とが関わり合うなかで育まれる知恵の創出こそが「教育」であると考えています。

このため A to Z 進学セミナーでは、生徒ひとりひとりと講師はもちろん、保護者の方々と密接なコミュニケーションをとり合い学習指導・進路相談を行ってまいります。

ともすれば疎かにされてしまいがちな、この“教育におけるコミュニケーション”ですが、指導者が、生徒ひとりひとりがどのような個性をもっているのか、どのようにものごとを考えているのかを知らないままに真の教育が成り立つことは決してありません。

【コミュニケーションを通じた総合教育システム】



A to Z 進学セミナーは、当セミナーに関わって下さる皆様が「明るい未来を切り拓いていく為の知恵」を自発的に生み出し成長し続けていけるよう、必要な環境を整備・創造していくことを教育理念として掲げ、最大限の誠意をもって教育に取り組んでまいります。

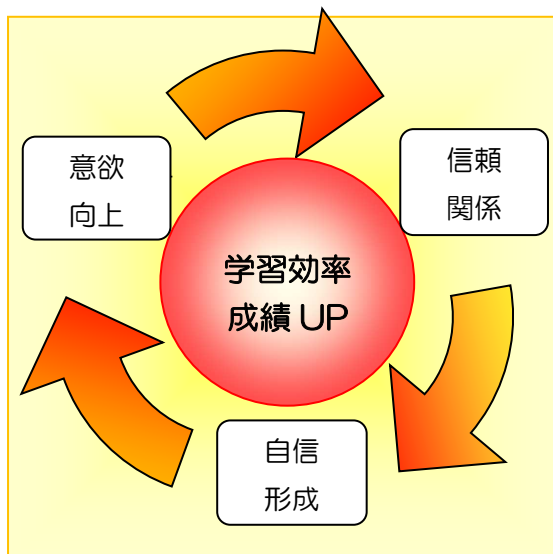
◎指導方針

『生徒ひとりひとりの個性・学力を把握することで、 学習意欲から成績向上、合格までを完全サポート』

A to Z 進学セミナーの講師は、生徒ひとりひとりの個性や学力を把握し指導していくことが、教育に携わる上での“最重要事項”であると認識しています。そのため、講師は生徒ひとりひとりの様子を常に確認しつつ指導にあたっており、生徒の不安や不明点を早期に発見・解消していけるからこそ講師と生徒との信頼関係が生まれてくるのです。

こうして築き上げられた信頼関係は、生徒ひとりひとりの自信や学習意欲の向上につながっていきますので、「勉強することが楽しい」「やりがいを感じる」というように自発的に学習へ取り組む姿勢が、おのずと成績に反映していくという好循環へと結びついていくのです。

【成績アップ・モチベーションアップの好循環】



私たちは、こうした自発的な学習へのきっかけを与えていくとともに、少しでも生徒ひとりひとりが成長していけるよう全力でサポートしていきたいと考えております。

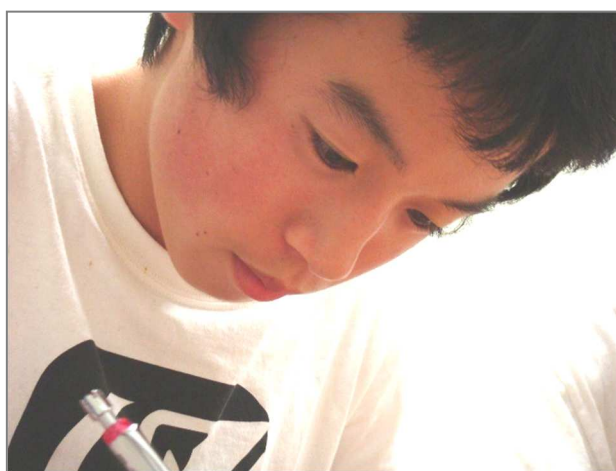
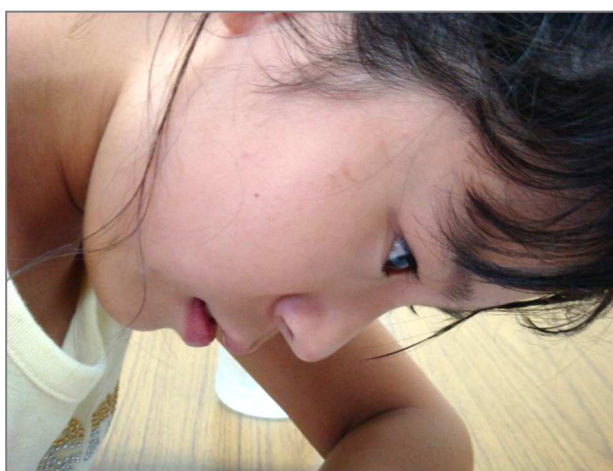
『学校学習・受験指導を通じて、多角的に考える力と、

未来を切り拓く為の“たくましさ”を養成します。』

受験や競争について皆様はどのようにお考えでしょうか？

この回答については、おそらく皆様の中でも賛否両論あることと思います。もちろんどのような事柄も度が過ぎた際の弊害は当然あります。しかしながら、私たちは「学生にとって、受験という共通の目標があるからこそ、真剣にそれに向かって努力・切磋琢磨する経験を積むことができる。」こう考えて受験指導に臨んでおります。

この努力によって得られた経験や達成感は、彼らが次の目標に向かう時の大きな自信になります。そして、受験勉強を通じて得たどの知識も、次の成功のための重要な道具となることでしょう。



A to Z 進学セミナーは、このような理念のもとに学校学習・受験指導に携わっていくことで、「未来を切り拓く(=次の成功へつなげていく)」ための思考力と、精神力とを生徒ひとりひとりが培っていけるよう最大限努力してまいります。



ひばりが丘教室の使い方

習い事や部活、学習進度や理解度に応じて、
月々の教室利用プランが3つから選べます。

講義も出席して地の学力も上げたいし、学校の定期テストも長期休みの講習もちゃんとやって、一般入試に向けた万全の準備をしたい！！



F 生

教室利用料金



指導ベース料金



講義受講料金

講師からの学習、生活、進路などのコーチングをフルで受けながら、合格率 90% 超をほこる指導で、内申 UP・偏差値 UP を 1 年を通して目指していきたいひと向けのプランです。第一志望合格に向けて、生徒たちが 100% の準備をできるように指導していくことをお約束します。

普段は部活とか習い事とか忙しいし、講義は受講しなくても、課題や演習物も含めて、勉強のスケジュールや戦略はいっしょにやってもらいたい。もちろん、質問も。



S 生

教室利用料金



指導ベース料金

そこまでみっちり講義を受けたいわけではないけど、勉強のペースなどの相談やピンポイントで教えてもらいたいところがあるというひと向けのプランです。授業は取らなくても、塾にあるリソースは全部使ってもらって OK。

勉強のサポートとか、気軽に質問できる環境とか
ぐらひは欲しい。



B 生

教室利用料金

「内申や学力にはそれほど不安はないから、授業をとる必要は今のところないけど、自宅では勉強しないから、塾のような勉強場所は欲しいし、質問もできる場所があったらいい。サポートも受けられるなら欲しい。」というひと向けです。

【注意事項】

- S 生・B 生は、生徒との相談の上週 1 日の通塾日を設定し、学習状況などの進捗共有・管理を致します。
- すべてのプランで年 1~2 回の諸経費を申し受けます。

【利用プランごとの比較】

	教室やリソース、 システムの利用	MP による 完全パーソナルな 演習・トレーニング	通常授業への参加 (ライブ/オンライン)	講習・講座への 参加
F 生(本科)	○	○	○	必修
F 生(個人)	○	○	○	必修
S 生	○	○	—	任意
B 生	○	—	—	任意

○ F 生(個人)について

習い事が忙しく時間が本科と合わせられなかったり、学力状況等でどうしても1対1の方が良かったりといった場合に使われます。当セミナーのF生(個人)は、「講義も演習も完全マンツーマン」です。
※そのため、演習枠への参加は基本的にありません。時間帯や授業時間もお相談させて頂いております。
F生(個人)は枠数が決まっておりますので、詳細はお電話や面談にてお尋ねください。

○ オンライン配信について

講義は聞きたいけど、部活や習い事などどうしても都合が合わない場合、定期テストの勉強に集中するために講義内容を後日確認したい場合など様々なご要望にお応えするため、講義の動画配信も順次実施してまいります。授業にやむを得ないご事情で欠席になってしまった場合にも、また一度受講した講義を遡って学習したい場合などにも活用可能です。

※視聴をご希望時点での教室利用区分や履修形態により、動画を視聴できない場合がございます。

○ ZOOMなど、オンライン会議ツールの活用

講義へのZOOM参加は事前にご連絡頂ければ可能です。どうしても自宅から参加しなければならない場合などにお声がけください。また、オンラインでの質問対応など順次環境を整備し実現予定です。

学習のかたち

グループ講義(無学年制)



完全パーソナル演習・トレーニング

私たちは、「従来の集団指導塾」でも「個別指導塾」でも、最近出てきている「管理のみをする塾」でもありません。

誰もが知っていることですが、学力は「やった分」しか伸びません。

この「やった分」というのがなかなか難儀な代物ですね。

なぜなら、

- ① 生徒それぞれで、学力や理解力の違いから扱う問題の種類・レベルが異なるから。
- ② 生徒それぞれで、問題を解けるスピードや集中力が異なるから。
- ③ 生徒それぞれで、巻き戻してやり直さなければならないスタート地点が異なるから。

このような理由において、昨今の教育はどんどん「個人指導化」していくことになりました。

私もこれは望ましいことだと思っています。人それぞれ、目標や目的が異なるわけですし、それに応じて、やり方や分量は全く異なることになりますから。

しかし、一方で「個人指導化」を進めた結果、間違いなく2つの問題にぶち当たっていると思うのです。

1つ目は、「教える側」の問題。

「しっかりとした講義をやる喋り手」には、やはり数に限りがあります。

あまりこういうことは言いたくないですが、「個人指導化」することによって、「当たり外れ」の問題が当たり前のように発生してしまいます。

2つ目は、子どもたちの「人的経験の不足」。

習い事が多種多様になり、子どもたちが体験できることは多くなったと思います。

しかし、それは結構な頻度で「ひとりでやること」であることは否定できないのではないのでしょうか。

また、大人の話真剣に聞かせる機会も減っていますね。このままではマズい。そう思うのです。

よって、**私たちが実現したのは、**

「厳選された話し手の、コミュニケーションを重視したライブ授業」で、確かな知識と経験を手に入れてもらい、「完全にパーソナル化した演習システム」で、自分の能力を最適な形で伸ばしていく。といった、これまで相いれなかったものを両立する、ということです。

MP (中期行動計画) & Director制度

私たちが「講義はグループで」、「演習は完全に個人別に」を実行する上で要になるのが、MP(中期行動計画)と Director 制度です。

MP(中期行動計画)とは、生徒個々の能力や学力、進捗スピードや集中力、性格などの要素を分析し、生徒個々が「その瞬間何をすべきか」ということを設定するツールです。

時期やタイミング(新出カリキュラムを消化する時期か、テスト前のタイミングかなど)や、どのくらい時間があるタイミングかを考慮し、新出単元から英検などの検定関係や受験勉強として取り組まなければならない英単語といったものまで、多種多様な項目をバランスよく(ときには比重を偏らせて)、演習・課題を設定しています。

また、生徒の学力や進捗管理能力によって、課題を提出することが義務の生徒もいれば、小テストで点数を取るために自分である程度取捨選択して勉強していく生徒まで、さまざまなパターンが存在します。

このMPを生徒本人が自分自身で全て構築できるようになれば、大学入試ひいては社会人になってからも、プロジェクトをどのように進めていけばよいのかといった思考を養成できると考えておりますので、徐々にですが、最終的には全て自分で作成させることを指導目標としています。

では、生徒本人が自分で MP を設定できるようになるまで、誰が MP の設定をガイドするかと言えば、それが Director ということです。

各生徒は担当の Director と緊密に連携しながら、日常的にコミュニケーションをとって、日々を送っています。MP も基本的には担当の Director が状況を分析した上で設定し、各生徒に共有しています。そのMPを用いて、最低でも月1回は1対1のミーティングを実施し、どのように進めていくか、その地点までの反省点・改善点は何かなどを話し合って、次につなげています。

このようなことの一切を実現するため、「指導ベース料金」で賄わせていただいております。

▼ ある中3生のMP ()

WEEK 4	12/11(月)	～	12/17(日)	WEEK目標：	コンテンツ				
					コンテンツ				
平面図形1_入試問題演習 2015年度最新問題集(数学)P26～29					OS0009_歴史(史実_並び替え)古代・中世.xlsx				
空間図形_入試問題演習 2015年度最新問題集(数学)P36～39					OS0010_歴史(史実_並び替え)近代・明治・大正.xlsx				
電流がつくる世界 シリウス理科中2P45～46					OS0011_歴史(史実_並び替え)昭和・平成.xlsx				
OW3015_幕末・明治時代①.xlsx									
OW3017_明治時代③・大正時代.xlsx									
都立共通数学 大問123演習(第9回) 数学_東京都予想問題_大問123@P48～49									
電磁誘導 シリウス理科中2P49～50									
都立数学_大問2(2)対策/式の証明 中学必勝p.36～38									
課題・教室外	11	12	13	14	15	16	17	V模擬	
	2015年度最新問題集(数学)P26～29								
	中学必勝p.36～38			2015年度最新問題集(数学)P36～39					
			中学必勝p.39～42						
					中学必勝p.43～45				
	まとめと完成理科P150～153								
			まとめと完成理科P154～155						
	高校入試歴史 年表②(2日で1周)			高校入試歴史 年表③(2日で1周)					
	長文読解集								
来てる演習		シリウス理科中2P45～46			数学_東京都予想問題_大問123@P48～49				
		OW3015_幕末・明治時代①.xlsx			シリウス理科中2P49～50				
		OW3017_明治時代③・大正時代.xlsx			OS0009_歴史(史実_並び替え)古代・中世.xlsx				
					OS0010_歴史(史実_並び替え)近代・明治・大正.xlsx				
					OS0011_歴史(史実_並び替え)昭和・平成.xlsx				

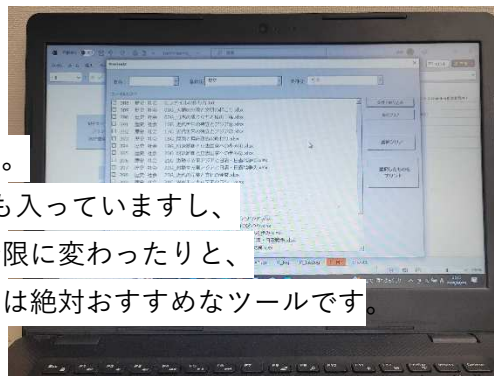
▼ ある中1生のMP

WEEK 2	10/2(月)	～	10/8(日)	WEEK目標：	コンテンツ				
					コンテンツ				
単語力強化 英単語練習U.6									
01D_中1教科書単語50題.xlsm(U.6.1-U.6.3)									
平面図形の移動_確認問題/演習問題A 数学標準新演習中1_P124～126									
現在進行形_確認問題/演習問題A 英語標準新演習中1_P121、122									
平面図形の移動_演習問題B 数学標準新演習中1_P127									
現在進行形_演習問題B 英語標準新演習中1_P123									
MN1020_平面図形.xlsx									
EN1019_不定詞・動名詞.xlsx									
課題・教室外	2	3	4	5	6	7	8		
	数字標準新演習中1_P123								
	英語標準新演習中1_P119								
			英単語練習U.6						
			10/6の小テストに向けて復習			数字標準新演習中1_P127			
			10/6の小テストに向けて復習			英語標準新演習中1_P123			
来てる演習					01D_中1教科書単語50題.xlsm				
					数字標準新演習中1_P124～126				
					英語標準新演習中1_P121、122				
					MN1020_平面図形.xlsx				
					EN1019_不定詞・動名詞.xlsx				

通称、『道場』。

教室のオフィススペースには一台のパソコンが置いてあります。

そのPCこそ、通称『道場』。出力したい演習物は基本なんでも入っていますし、一問一答の順番がシャッフルされたり、数学の問題は数字が無限に変わったりと、できるまで繰り返し何度でもやる！ということをやりたい方には絶対おすすめのツールです。



MPに搭載されることもあります、自分でやることももちろんOK。

基本、いつ、どこを使ってもOK。

講義で使う教室以外は、どこを使って勉強しても構わないというのが、A to Zのルール。

早く来てオフィススペースに近いところで勉強するもよし。

使っていなければ個室にこもって、集中するもよし。

はたまた、勉強会に中くらいの教室を借り切っちゃうのも、許可さえ下りればOK。

Slackを利用したコミュニケーション。

当セミナーでは、コミュニケーションツールとして「Slack」を採用。

生徒用のワークスペースでは、課題の提出や進捗の確認、質問行きたいです！という予約、

お休みしてしまったときの授業動画の配信などの連携系統のことから、

たまに全然勉強に関係ない話まで、あらゆるコミュニケーションリアルと合わせて、

slack上でも行われています。

保護者様用のワークスペースも存在し、お子様の様子の相談や時間割などの資料の添付、

受験に関する情報の連携に利用しております。



▲保護者様用 slack画面 例

▼子どもたちの slack画面 例



履修のしかた

- I 教室の利用の仕方を刷新。たとえば、「講義」を取らなくても、「演習・戦略指導」を選択できるように。
- II 「講義」は無学年制に。Director と随時相談しながら、理解度・到達度に応じて、「講義」を履修可能。
- III 「オールインクルーシブ・モデル」について
- IV 「演習日」はなくなり、講義以外に演習で登塾するタイミングや日数を個別に決定する方式に変更。

【詳細】

I 教室の利用の仕方を刷新。それに伴い、料金体系のあり方も変更しました。

子どもたち一人ひとりに最適な学習環境やシステム・指導を提供するために、現在ご案内している教室利用区分(B生・S生・F生)の在り方を刷新し、以下の各区分を以下のように変更致します。

【2023 年度まで】		【2024 年度以降】
B 生 教室利用/質問対応のみ		B 生 教室利用/質問対応のみ
S 生 平時は教室利用/質問対応のみだが、講習期間中は授業に参加。	→	S 生 講義には参加しないが、演習・課題や学習戦略指導は受け、担当 Director と相談しながら学習を進めていく。
F 生 平時・講習期間問わず、授業に参加。		F 生 演習・課題や学習戦略の指導はもちろんのこと、講義も通期受講する。 ※1 講義でも通期受講される場合にF生となります。

これにより、いろいろな活用の仕方が可能になります。たとえば、以下のようなパターンです。

例 1) 中 1・2 生で、国語・数学・英語はしっかりやらせておきたいけど、部活や習い事で通塾日は2日で

抑えたい。英語は結構得意そう。→ 国語・数学は「講義」も受講。英語は「演習・課題/学習指導」だけ。

例 2) 受験に向けて勉強するが、苦手な科目と深めたい科目は講義も出席して、それ以外は「演習・課題/戦略指導」だけ受けたい。

【2023 年度まで】		【2024 年度以降】
・ベース料金 ・受講料(授業受講+演習指導) 以上の2つの合算にて月々ご請求	→	① 教室利用料金 ② 指導ベース料金(学習戦略・演習指導など) ③ 講義受講料金 以上の3つの合算にて月々ご請求 ※従来の「受講料」を「指導ベース料金」と「講義受講料金」に分けたイメージです。

※料金詳細は、同封の「セミナー生料金体系」をご覧ください。

また、教室利用区分やどの講義を通期で受講されているかによって、講習時などの各種講座の受講料金は変動して参ります。(F生で講義を受講されているの方が割安に講座は受講可能です。)

Ⅱ 「講義」は無学年制に。Director と随時相談しながら、理解度・到達度に応じて、「講義」を履修可能。

2023 年度からいくつかの講義・講座で先行実施しておりました、「講義の無学年制」を原則、開講する全ての講義に適用致します。演習や課題を完全に個人別にして、子どもたちがやるべきことを明確にし、それぞれのレベルに合わせて難易度やボリュームを調整していくことをやってまいりました。

2024 年度からは、子どもたち個々の必要性に合わせて講義を履修できるようにして、前の学年の単元に戻って受講することも、上の学年の講義を受講することもできるようになっております。子どもたち各自を担当している Director と相談しながら、「この講義は出た方がいいのでは？」など細やかな指導を実現できるシステムとなっております。

また、ピンポイントである単元の講義は聞いておきたい、定期テスト対策の一環として講義を受講したい、といったご要望にもこたえられるよう、講義の受講形態を「通期受講」と「オンデマンド受講」の二つを用意致しました。詳細は「セミナー生料金体系」に記載しておりますので、そちらをご確認ください。

もちろん、複数の講義に参加したり、定期テスト前はそちらに集中していたりなど、講義の出席がしにくいこともあるでしょう。そういった場合には、「配信」での履修を申し出て頂ければ、あとでまとめて講義を受講することも可能になっております。また、「配信」を選択して頂くことにより、アーカイブ化した講義を視聴することもできます。こちらも是非ご活用ください。

※アーカイブの配信できる講義は順次整備しておりますので、ご希望の講義がまだ視聴できない可能性もございます。随時スタッフまでご確認ください。

2024 年度から「講義要項」も予めみなさまにお配りすることに致しました。いつ、どのような講義が行われるかは「講義要項」に記載しておりますので、そちらもご参照頂ければ幸いです。

Ⅲ 「オールインクルーシブ・モデル」について

こちらのモデルは、「ご希望の全ての科目の学習戦略・演習指導を受けられる」ことはもちろん、対面ライブ・オンライン配信問わず、「いくつ講義を受講しても定額になるモデルプラン」です。高校受験や大学受験、早期に全学習内容を一周終わらせてしまうなどの目的で、複数講義を受講したいときには最適です。特に、受験生は「オールインクルーシブ・モデル」の採用をぜひご検討ください。

※オールインクルーシブ・モデルの対象となる講義は「通期受講」のみとなります。「オンデマンド受講」はモデル対象外となりますので、ご注意ください。

Ⅳ「演習日」はなくなり、講義以外に演習で登塾するタイミングや日数を個別に決定する方式に変更。

2023 年度は、暫定措置として「演習日」を設けておりましたが、2024 年度からは完全無学年制の講義を運営するにあたり、「演習日」は廃止し、予めとりきめたタイミングで演習やテストなどを実施させていくスタイルに移行致します。ほぼすべての日に演習状況を監督し、指導するスタッフを配置致しますので、ご安心ください。

もちろん、MPや定期的なミーティングにて、演習・課題について細かく取り決めることは継続していきますし、必要性や個々人のレベルに応じて、日誌を含めた自立した人間に成長を促すための Sympass 指導も実施致します。

【履修申請についての注意点】

◎履修申請は年度更新時にご提出いただく他、ピンポイントで講義を受講したいときや、定期テスト前などで「演習や学習戦略指導」の科目数を追加したいときなど、その都度ご申請いただくものとなりました。

履修申請書は教室に常備しておりますので、恐れ入りますが必要なタイミングでお持ちいただき、必要事項をご記入の上、ご提出をお願い致します。(slack にて写真での提出で問題ございません。)

◎履修申請書の提出期限は、前月 10 日までとなります。前月 10 日を過ぎますと、ご提出頂いた履修申請の適用が1か月遅れることとなりますので、期限は十分ご注意ください。

◎「履修申請書」の書き方

A)生徒氏名、保護者様氏名、電話番号、学校・学年、申請日を記入する。

B)履修申請の適用時期を記入し、「次回申請をするまで以下の申請を継続する」か、「_____年__月期までの期間限定で申請し、期間後は申請前に戻る」のどちらかを選択する。
後者を選択された場合には、年月を記入する。

C)「① 教室利用区分」を選択する。 → 「B 生」を選択された場合は、C) で終了。
→ 「S 生」・「F 生」を選択された方は、D) へ

D)「② 指導ベース(学習戦略・演習指導)」で科目を選択。 → 「S 生」を選択された場合は、D) で終了。
→ 「F 生」を選択された方は、E)、F) へ

E)「オールインクルーシブ・モデル」に参加される場合には、「参加する」に○をつける。

↓

F)「③ 受講する講義」を選択。

各学期内通して受講する場合には、「通期受講」に、期間限定で受講したい場合には「オンデマンド受講」に、「✓」を入れる。また、ある講義を「配信」のみで受講する場合には、「配信のみで受講する」に「✓」を入れる。

講習会は年に春期・夏期・冬期の3回行なわれます。各講習では、それまでの内容の総復習及び受験学力の養成、中3に関しては受験パターン問題の練成を行います。

A stylized illustration featuring a clock, a notepad, and an open book. The clock is in the top left, the notepad is in the bottom left, and the open book is in the center. Large, bold numbers (1, 2, 3, 5) are scattered around the objects, suggesting a focus on time, organization, and learning.

三者面談は中学生（中3は必修）を対象に10月に行っております。また、6月には中学生を対象に保護者会を実施しております。また、勉強・進路等のご相談には常時応じさせていただきますので、必要な時は事前にお電話下さい。（日程は応相談）

前項までにご紹介した各種講座や講習の他にも、セミナー生希望者対象のイベントとして、サマーキャンプやきのこ狩り、山菜摘みなどもシーズン毎に予定しております。是非「知・徳・体」の総合的な学習の為に、ご参加頂ければと思います。

17

一般的諸注意

以下の点につきましては、入塾後の基本的な注意事項となりますので予めご確認ください。

- a. 原則として遅刻および欠席は厳禁です。体調不良やその他やむを得ない理由などで、遅刻・欠席をする場合には授業開始 10 分前までに必ずご連絡下さい。（基本的に正当な理由なき遅刻や欠席に関する補講は実施しておりません。）また、授業開始時に入室確認がとれない場合も遅刻扱いとなりますので、必ず始業時刻には着席し授業の準備をすませておくようにして下さい。
※授業開始後 10 分を経過しても入室のない場合はご家庭へご連絡差し上げます。
- b. 授業に持参するものは、塾のテキスト・筆記用具です。ただし、学校の定期試験 2 週間前からは定期試験対策授業へと切り替わりますので、学校の教科書を忘れずに持参してください。（英語は英和辞典、社会に関しては資料集等も併せて持参して下さい。）その他、事前に講師から指示があった場合には、その指示に従って下さい。
- c. 講習および講座、夏期集中授業などについては、本人の希望を加味して時間割を組みますが、正式な発表は年間計画表に指定した日に校内掲示の形で行いますので、必ず事前に生徒本人にて確認するようにして下さい。
- d. 休日は原則として土曜・日曜（月例テスト・振替授業・補講・自立学習予約がある場合を除く）・祝祭日及び当セミナーの指定する日となります。
詳しくは年間計画表にてご確認ください。
- e. 学校の成績通知表及び定期試験時の点数通知表（定期試験成績表）は、学校から渡されましたら、必ず一度当セミナーへ提出してください。
これら学校の成績を資料に最終的な内申点を概算で計算し進路指導を行っていきます。
- f. 一旦納入された費用については、理由の如何にかかわらず返金できませんので予め御了承下さい。また、講座・講習についても申込書の提出後は特別な理由がない限りは、講義に参加できなくても費用を頂くこととなりますのでご注意ください。
※なお、休会・退会の場合も前月の 10 日までに手続きを行ってください。期日を過ぎてのお手続きについては、翌月分の月謝までは所定の金額が発生してしまいますのでご注意ください。
- g. 入会後は生徒規則を熟読の上、必ず遵守して下さい。
- h. その他、月例テストの日時、時間割の変更、クラス編成、諸注意等の詳細については、通常、塾内の掲示板（ホワイトボード）及び月間計画表に掲示・掲載する形で発表します。塾に入ったら初めに必ず掲示板の内容を確認する習慣を身につけるようにして下さい。
- i. 塾のパンフレット等への掲載を目的に、生徒や授業風景について写真を撮ることがあります。撮影および掲載に関するご理解・ご協力をお願いいたします。

※ なお、その他ご不明な点がある場合には、お電話にてお気軽にお尋ねください。

Tel (042) 423-5525 平日：午後 3 時～午後 10 時

総合パンフレット

平成 15 年 3 月 1 日 初版発行
令和 5 年 6 月 20 日 改定新版
発行所 A to Z 進学セミナー

〒188-0001
東京都西東京市谷戸町3丁目9-5
ひばりメディカルモール 2F
Tel : 042-423-5525 (代)
Fax : 042-422-7796



AtoZ進学セミナー

TEL : 042-423-5525

MAIL : hibarigaoka@s-atoz.jp

URL : <http://www.s-atoz.com/>